

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援 みによん		
○保護者評価実施期間	R8 年 1 月 5 日		R8 年 1 月 30 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R8 年 1 月 5 日		R8 年 1 月 30 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8 年 3 月 5 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小人数の受け入れ体制を整えることで、一人ひとりの発達段階や特性を丁寧に把握し、個々のニーズに応じたきめ細やかな支援を行っている。子供が安心して活動に参加できる環境を整えることで、無理のない成長を促すことができている。	・職員配置を適切に行い、一人ひとりの特性や発達段階に応じた療育を実施している。子どもが小さな成功体験を積み重ねることができるよう支援を行い、自己肯定感や意欲の向上につながるよう配慮している。	・小学校入学を見据えて上級生との集団活動にも参加する機会を設け、異年齢交流を通して社会性やコミュニケーション能力の向上を図っていく。
2	読み聞かせ等の活動を通して、言葉への興味関心を高めるとともに、日常生活に必要なルールやマナーについても学ぶ機会を設けている。 知識や興味の幅を広げ、社会性の基礎を育むことを大切にしている。	・紙芝居や絵本だけではなく、パネルシアターなど視覚的にもわかりやすい教材を積極的に取り入れている。子供の興味関心を引き出しながら、楽しんで活動に参加できる教材の工夫をしている。	・図書館の利用や教材の種類を増やすなど、子どもの興味や発達を促す環境作りを進めるとともに、職員自身の専門性の向上にも努めていく。
3	子どもたちが様々な経験を積むことができるよう、日々の活動の中に個別課題や行事等を取り入れている。楽しみながら取り組める活動を通して達成感や成功体験を積み重ねられるよう工夫している。	・季節ごとの製作活動や集会をはじめ、発達段階に応じた個別課題やリトミック、運動遊びなど集団活動も取り入れている。活動を通して成功体験を増やし、自己肯定感の向上を図る支援を行っている。また、長期休暇中は、見学活動や体験活動を設け、社会経験を広げる機会をつくっている。	・運動遊具や教材の充実を図るとともに、職員が研修に参加することで支援の質の向上を目指していく。また、活動内容が曜日や偏ったり、固定化されないよう計画的にプログラムを構成していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種マニュアルは作成しているものの、保護者への周知が十分とは言えない部分がある。	・マニュアルに基づいた訓練や対応は実施しているが、保護者への説明や共有の機会が限られており、十分な理解や周知に繋がっていない可能性がある。	・面談の時などを活用して、周知するようにしていく。
2	・ペアレントトレーニングを含め、保護者や家族が参加できる研修や学習の機会が十分に確保できていない。	・親子で参加できる行事は企画しているものの、事業所独自の研修の実施には至っていない。また、ペアレントトレーニングの研修にも参加できていない状況がある。	保護者支援の充実を図るため、ペアレントトレーニングを実施できるよう外部研修に積極的に参加し、職員の知識や技術向上を目指す。
3			